

グローバル通信

～発刊第1号～



2014/04/22

NO. 1

海城中学高等学校グローバル教育部

グローバル教育部がスタートして3年目を迎えます。帰国生の支援を主体として始まった部ですが、現在は海外研修、国内語学研修、留学生の支援、海外進学への支援など多方面にわたっております。また、新しい教育の波についての研究も大事な仕事の一つとなっています。そうした活動を紹介すると共に、生徒あるいは保護者の方々に、学校だけではなく世の中のグローバル教育の動向を知っていただこうと思い、不定期ながら「グローバル通信」を発刊していくことにしました。従来ホームページなどで紹介してきました情報も本誌を通してお知らせしたいと思っています。また校外の各種イベントなどもお知らせ致します。

イギリス、アメリカから新任の先生を迎えました！

本年度より、英語科に William Furse 先生（イギリス出身）と Benjamin Tobacman 先生（アメリカ出身）をお迎えしました。中学1年、2年、高校3年の授業を主に担当されますが、講習なども企画しています。また、英語を沢山話してみたい、上手になりたいという生徒はグローバル部に来て下さい。Tobacman 先生はグローバル部の部屋にすることが多いです。Furse 先生は英語科にすることが多いです。

何れお二人には寄稿していただきます。



Tobacman 先生と話す高校2年生

さて、第1号では昨年アメリカのグリーンネル大学に進学した大村君の現地報告2回分を掲載致します。（第1回はホームページで紹介）海外の大学へと羽ばたいた大村君のアメリカでの大学生活をお読みください。

大村崇寛「アメリカ報告 1」

皆さん、初めまして！昨年三月に海城高校を卒業し、八月からアメリカ・アイオワ州にあるグリーンネル大学（Grinnell College）に進学しました、大村崇寛と申します。この度は、国語科・春田先生の強い要望（笑）もあり、アメリカでの学生生活について少し書いていくことになりました。日本語で文章を書くことはまずないので、怪しい部分もあるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

さて、僕が通っているグリーンネル大学について少し。グリーンネルは、今話題の！リベラルアーツ教育を行っている私立大学です（いわゆるリベラルアーツカレッジ）。アイオワ州は、地理を取っている海城生諸君なら当然分かると思いますが、トウモロコシの生産が盛んな、アメリカ中西部にある州です。まあ簡単に言えば「ど」がつくほどの田舎です。大学の近くには小さな町がポツンとあるぐらいで、めばしいものは何もありません（遊んでないで勉強しろということでしょうか笑）。

大学の特徴となりますと…まず、学生全体が多様性に富んでいるということが挙げられます。

1. 留学生の割合がアメリカの大学の中でもかなり大きい。学生数の約13~4%が留学生で占められているそうです。実際、一年生約400人中、留学生は60人強います。それも、世界中から来ています。各大陸から少なくとも一人は来ているのではないのでしょうか。
2. LGBTが多く、またそれを皆が尊重する。LGBTとはLesbian Gay Bisexual Transgenderの略称です。このような学生が非常に多いように感じます。例えば、僕の親友にゲイもバイセクシャルもいます。日本にはあまりない価値観で（特に私立男子校出身者として）、初めは正直戸惑いましたが、「リベラル」な大学とはこういうことなのだな、と今では納得しています。

もうひとつの特徴は、「学びの自由」だと感じます。こちらでは、文理、芸術等で別々に別れることはなく、自由に授業を選択できますし、専攻の選択も比較的柔軟です。授業は文系科目、理系科目、芸術科目をバランス良く取ることを推奨されます。ちなみに僕は前の学期は「動物と機械における美德」「中国語入門」「政治学入門」「統計学入門」を取り、今学期は「中国語」「経済学入門」「社会学入門」「心理学入門」「ピアノ」を取っています（バランスが良いか悪いかは皆さんのご判断に…）。

その他考えると、少人数といったことでしょうか。一番人数の多い授業でも25人程度で、少ない授業だと5人ぐらいです。ですので、授業に参加しやすかったり、教授・クラスメートと仲良くなれたりします。

今回は学校紹介に終わってしまいましたが、次からはもう少し生活の様子や自分で思うことについて書いていけたら、と思います。

ではまた！

大村崇寛「アメリカ報告 2 四年計画」

四月に突入し、いよいよ学期末が近づいてきたな、という印象です。天気も良くなりつつあります（ほんの一、二ヶ月前までは氷点下でしたから）。そんな中僕は図書館に閉じこもり、来学期の授業決めに頭を悩ませています…というのも、僕はまだ専攻を何にするか決めていません。今のところの候補は、心理学、政治学、歴史学、そして中国語です。興味と今の状況を加味すると心理学が一步リードしているがまだ分からない、といった感じです。

リベラルアーツカレッジの良いところは、専攻を決めずに入学し、色々な授業を自由に取ってから専攻を決められるところだと思っています。実際、僕が入学したとき、何を専攻するか全く分かりませんでした（今もですが）。一、二年生のうちに入門系の授業をたくさん取って、その中から取捨選択することが十分可能なのです。ただ、ここでの問題は、一つの学期に4つしか授業が取れません（僕の大学では）ので、一年生のうちに全て違う科目を取っても8科目。これでは十分に興味のある分野を探索できない！しかも、大学が小さいので授業の種類・数がわりと少ないです。ですので、「これ取ってみたいな」と思っても他に取る授業と時間帯が被っていることもしばしば。

えー、このようにグリーンネルのような小さい大学のデメリットを述べましたが、メリットもたくさんあります。教授との距離が近い、教授が自らの「研究」よりも「教育」に力を入れているため授業の質が高い、授業が少人数、などなど。要するに、面倒見が良いです。さらに、学生一人に対して Adviser（全て教授）が一人つきます。専攻を決めるまでの間、授業選択などのアドバイスをくれます（専攻を決めたら、専攻学問の教授に変わります）。

というわけで、文句を言っても仕方がないので、僕は静かに「授業選択」と「四年計画」を考えています。四年計画とは、大学四年間の授業選択の大まかな計画です。心理学の最上級クラスにはこの授業の単位が必要で、そのためには～～、というように、一年生の段階から専攻と卒業を見据えて計画を練っていきます。

このように、履修登録期間中でなくても、頭のどこかで常に何年後かのことを考えています（良くも悪くも）。大変悩ましいものですが、同時に多くの可能性を発見できてとても楽しいです。

あと一ヶ月強で夏休みです。夏休みの過ごし方もこれから考えていかなくては…では、また。

夏の海外研修

本校では、高校1、2年生を対象に「イギリス語学研修」を開催しています。（4月19日に説明会を実施しました）ここ数年倍率が高く、残念ながら参加できない生徒が相当数出ております。学校として新たな研修を企画すればよいのですが、簡単にはできません。そこで、昨年はISAという会社の「次世代リーダー養成プログラム」という、「アメリカ合衆国 カリフォルニア大学 バークレー校」での研修旅行を紹介しました。イギリス研修の抽選に漏れた生徒やアメリカ研修を最初から希望した生徒20名近くの高校1年生が参加しました。内容の充実したとても良い研修旅行のようでした。本年も同様の研修旅行が企画されています。ISAの最終説明会は5月10日に予定されています。関心のある方は5月7日までにグローバル教育部に来て下さい。説明会等の詳細をお知らせ致します。なお、3月に開催した「留学説明会」で紹介した「地球の歩き方」と「ベネッセ」の研修プログラムもあります。

下記に、昨年ISAの研修に参加した現高校2年生の嘉悦君の感想を掲載しておきます。

僕たち”次世代リーダー”の中から次の生徒会長は選ばれるだろう

この次世代リーダー養成プログラムを通して、僕たちは人生を楽しむために、成功させるために必要な知識を多く学んだと思う。リーダーシップとは何か、真のリーダーに必要なものは何か、といった”次世代リーダー”になるために必要な事柄から、そもそも自分はどんな人間なのか、”成功”とは何なのかといった根源的な内容まで扱った。今思い返してみると、インストラクターTimが自分から「こうだ」と教えた内容はほとんど無く、生徒たちの発言をもとにTopicksは成り立っていた。ディスカッションベースだったから、内容が自分たちの耳だけでなく、心に入ってきたのだと思う。また、全てが英語で行われたのも善かったと思う。普段使う機会のない実用英検をふんだんに活用できた(笑)し、日本語だったら照れ臭いような発言もできた。初めは、英語でやる意味あるのかと僕は疑問だった。**What’s Great About Me?**というプリントがあったが、これは人の性格、気質、信念を表す形容詞が何十と書いてある(いろんなフォントで)。Timからは、自分にあると思う物をマークせよとの指示が出た。僕たちからすれば、「**聡明な、正直な、進取的な**」と書いてあるよりは、「**intelligent, honest, enterprising**」と書いてあったから、自分をしっかり見直すことができたと思う。

これまでは一応リーダーとして全体を振り返ってみたが、僕個人の学んだことで一番印象深かったのは、良い目標のたて方、すなわちSMARTである。SとはSpecificつまり、漠然としたものではなく、明確な目標をたてること。MとはMeasurableつまり、達成したかどうか分かる目標をたてること。AとはAchievableつまり、前提条件を見直してから目標を立てること。Rとは、Result

Focusedつまり、目標達成が何を生むかを考えて目標を立てること。TとはTime Boundつまり、時間制限のある目標を立てること。この5つを守った目標を立てることが、何かを成し遂げるカギなのだ。SMARTを守った目標には、具体的なアクションプランがあり、実行することができる。それが無ければ、目標はただの夢で終わり、これをPipe Dreamとアメリカでは呼ぶそうだ。このSMARTについて、Topicksの最終日のスピーチにおいて僕は述べたが、日常生活の様々な場面で活用できると思う。そしてこの思考法を採れば、ポジティブ・シンキングに繋がると思う。これは問題が山積する場面において、決して楽観主義的な思考ではなく、一つ一つにSMARTで解決策を導き出し、諦めないという精神的な強さに繋がると思う。また、Douzenの三浦さんによる講演も非常に面白かった。シリコンバレーで起業したと聞いていたので、情熱的な人かと想像していた。その人から人生における”defense”と”offence”や”取り敢えず”という言葉が出てくるとは思わなかったのだ。三浦さんは人生を楽しむには「回り道を恐れるな」と言っていた。Sonyを退職してアメリカの大学に行ったかと思いきや、帰国後にSonyを退職して中小企業に入り、現在はSan Franciscoで起業したという人物から出た言葉だから、説得力があった。

今まで、僕は取り敢えず英語検定に取り組んできた。それもいわば1.2~3級に到達し次の目標を立てるときが来たと思う。次の目標は、模擬国連で優勝しニューヨークにタダで行くことである。SMARTの全てを満たした目標である。今は、一次審査突破、そして本戦のトピックについてのブラジルでの先行調査に邁進している。今回の次世代リーダー養成プログラムを通して、僕を含めてみんなが積極的に発言することの重要性、そして相手に伝わる話し方、効果的なスピーチのやり方など、英語でのコミュニケーションに関して様々な面で進歩した。この経験を生かして、僕の短期目標の実現につなげたいと思う。

イギリス海外研修

本校主催による今年度のイギリス研修は、下記の予定で実施します。

期 間	7月21日(月)～8月4日(月)
場 所	イギリス モーバン
定 員	高校1、2年生 合計 30名
引 率	本校教員 2名
募集スケジュール	
	申込書・小論文提出締め切り 4月26日(土) 午後1時(時間厳守)
	選考結果の発表 5月8日(木)

夏の国内英語研修

昨年、中学2年生を対象に始めた英語研修ですが、今年度から中3、高1にまで拡大して実施します。保護者会で既に案内された学年もありますが、詳細につきましてはプログラム完成後、改めてお知らせすることとし、概要のみ記しておきます。

期間と対象学年、定員	
	8月18日(月)～20日(水) 中学2年生約100名
	8月20日(水)～22日(金) 中学3年生、高校1年生 それぞれ約50名
場 所	長野県上田市菅平
内 容	外国人講師による英語学習
詳細につきましては、	5月下旬順に発表します。